

## 変える農業

1

### 世界最大の見本市視察

世界最大のアグテック（農業関連テクノロジ）の見本市、アグ



アグリテックニカでは、穀物メジャー、大手農機メーカー、IT企業など世界の様々な企業が出展した

国際IT財団 プログラムディレクター



(くさかべ・ゆみこ)  
投資銀行を経て国際機関勤務15年。インド・中南米等海外案件経験17年、YK Global Impact設立、海外事業支援。東京F H顧問。農業データ連携基盤(W A G R I) 海外戦略担当。L S E 経卒、東京大学経済学修士、INSEAD Global Executive MBA。

流を捉え、国際

このような多くの子供や若者が映画「トランス

(5回連載予定)

日下部 裕美子

リテックニカ(A G R I T E C H N I C A)を訪問してきた。穀物メジャー、大手農機メーカー、商社、機械メーカー、IT企業など世界の大手企業がこぞって新技術を示す一大イベントである。ドイツのハノーバーで隔年開催されており、国際見本市会場の広さは世

界1位である(東京ビッグサイトの5倍)。日本からもクボタがメジャーな企業として広い展示場で大型農機を披露していたが、米国農機メー

カーのジョンディアはそれを上回る規模で超大型農機の展示をしており圧巻であった。各パビリオンに、テーマごとに農機メーカー、アグリデータ解析企業、ゲノム解析企業など様々な展示がある。ロシアは国として一つのパビリオンを持ち、万博のような規模であった。それ比べると、日本からはクボタ以外は、ベンチャー企業数社のブースのみ。日本のプレゼンスは国の経済力に比して小さい。

IT財団イノベーションリーダーズ・プログラム(ILP)では「ビッグデータとAIが変える産業分野・農業を事例に」というテーマで欧州視察を実施した。内閣官房副政府CIOである慶應義塾大学の神成淳司准教授率いる調査で、理化学研究所の先端技術研究者、企業経営者、様々な分野の企業派遣による若手から成る約20人で、農業の先端事例を視察した。アグリテックニカ訪問もその一環であ

## 世界の有力企業が競う「アグテック産業」

近年の欧米におけるアグテック産業の隆盛が目覚ましい。アグテックベンチャー数はVCから50

100億円規模の資金調達を行い、バイオ大手バイエルもアグテック新事業会社を設立するなど、他産業からの参入も増えている。

アグリテックニカを訪問したメンバーは一樣に、欧米と日本における農業のイメージの差、欧米の農機メーカーの国民への浸透度、欧米農業の洗練されたブランドイメージに驚き、感銘を受けていた。例えば、ドイツでは農業は若者にとって魅力的な高収益の人気職業であり、アグリテックニカでもビジネスマンが商談を行う傍ら、多

日本からもクボタがメジャーな企業として広い展示場で大型農機を披露していたが、米国農機メー

ターはそれを上回る規模で超大型農機の展示をしており圧巻であった。各パビリオンに、テーマごとに農機メーカー、アグリデータ解析企業、ゲノム解析企業など様々な展示がある。ロシアは国として一つのパビリオンを持ち、万博のような規模であった。それ比べると、日本からはクボタ以外は、ベンチャー企業数社のブースのみ。日本のプレゼンスは国の経済力に比して小さい。

日本国内の農業の担い手をめぐる状況においても熟練技術の若い世代への伝承、高齢化に対応した効率アップのための対策が喫緊の課題だ。AI・ロボット技術を取り入れた農業ビジネス経営により、生産性向上を図ることも必要である。今回の連載では、先行する欧米の状況を紹介することも、日本の対応について問題提起

界1位である(東京ビッグサイトの5倍)。

近年の欧米におけるアグテック産業の隆盛が目覚ましい。アグテックベンチャー数はVCから50100億円規模の資金調達を行い、バイオ大手バイエルもアグテック新事業会社を設立するなど、他産業からの参入も増えている。

アグリテックニカを訪問したメンバーは一樣に、欧米と日本における農業のイメージの差、欧米の農機メーカーの国民への浸透度、欧米農業の洗練されたブランドイメージに驚き、感銘を受けていた。例えば、ドイツでは農業は若者にとって魅力的な高収益の人気職業であり、アグリテックニカでもビジネスマンが商談を行う傍ら、多くの子供や若者が映画「トランス

このような潮流を捉え、国際

このような多くの子供や若者が映画「トランス

フォーマ」に登場するロボットのような大型農業機械の展示に群がっている。農機メーカーの熱狂的なファンとでもいうような彼らの姿は、アグテック産業の将来性を大いに感じさせるものだった。実際、海外ではデータ化、AI・ロボット化を進めるアグリビジネスが成長産業とみなされている。日本では国内の規模が小さい農場を対象にした機械・サービスが主流だが、世界に目を向ければアグテックの活用により市場が拡大しており、日本企業の参入の余地は大きい。